

フィリピン人海外労働者の現状と課題 ～東ネグロス州ギフルガン市トリニンダッド村～

国際学部 1 年 N. S.

はじめに

私は 2 週間フィリピンに滞在し、ネグロス島のバコロド市とギフルガン市の 2 カ所でインタビューを実施した。ギフルガン市では 3 日間ホームステイしながらインタビューをした。現地のフィリピン人パートナーと共に、実際にインタビューをする村にホームステイをして、村の人の生活レベルや価値観、実情を体験することができた。トリニンダッド村は市の中心地から車で約 2 時間かかる山の中にある。村人の主な交通手段はバイクだった。道はガタガタで坂道が多かったが、あたりは畑と山、ヤシの木、たまに家がある感じで、バイクからの景色は最高に綺麗だった。村人の 9 割は農業や小作人として働いて暮らしている。しかし、地主にレンタル料を払わなくてはならず現金収入は少ない。子供がたくさんいる家では、娘・息子が海外に働きに行き、彼らの仕送りで生計を立てたり、下の兄弟の学費にあてる家庭もあった。この報告書ではトリニンダッド村のインタビューに基づいて、フィリピン人海外労働者が抱える問題を明らかにする。

1. フィリピンの海外労働者

海外で就労するフィリピン人は一般的に OFW(Overseas Filipino Workers) と呼ばれている。全人口の一割超えに値する約 1024 万人が OFW として働く、労働者輸出大国。私がマニラの国際空港へ行った時には、これから海外で働くであろう人たちがたくさんいて出国の便を待っていた。彼らのフィリピンへの送金総額 (2014) は、約 243 億ドル。貿易赤字もこの送金の黒字によって相殺され、さらに自国の経済が不安定になっても送金額は安定して入ってくるため、OFW の存在はフィリピン経済の重要な支えである。また、労働人口が増加しているため、フィリピン国外の雇用は、足りない雇用確保のためにも必要となっている。OFW の海外派遣はフィリピン政府が積極的に関与していて、1960 年代末のマルコス政権から続く。彼らはフィリピンにとって重要な存在であるが、派遣先でさまざまな問題を抱えている。

2. 現地調査

A さん (38 歳男性)

- 結婚していて 1 人の子供を持つ
- 2013-2016 年 (35-37 歳) の 3 年間、日本の広島で船の溶接業←フィリピンのセブ島で溶接をしていたのがきっかけ
- 在留資格→技能実習生

- 朝8時～午後5時まで、休憩を引くと一日7時間労働
平日5日と休日手当がつく土曜の週6日
- 月22万円
使い道の内訳（5万円：寮、光熱費、水道代、保険代など、4万円：フィリピンにいる家族に仕送り、残りの11万円：食費、買い物など自分で好きに使う）
- フィリピンに帰ってからは溶接をやめて、実家に住み、現在はカナダのジュースを輸入して地元で売っている

Bさん（68歳女性）

海外労働経験のある子供を2人（B-1, B-2）持つ

B-1（36歳女性）

- 結婚していて1人の子供を持つ
- 10年前からカタールでレジ作業←フィリピン国内の大型ショッピングセンターでレジの経験があったから
- フィリピン・マニラの仲介業者を通してこの仕事に
- 夫もカタールのモーター会社で働いている、子供はフィリピンに住んでいる義理の兄に預けている
- たまに約5000ペソ（約1万円）をBさんに送る

B-2（34歳男性）

- 結婚していて1人の子供がいる
- 2008-2011年の2年半、Aさんと同じ日本の造船会社で溶接
- 月17万円
- 2年半で45万ペソを実家に送る
- フィリピンに帰ってからは溶接をやめて、実家に住み、現在は豚を育てている

3. エクスポートジャーの5ステップアプローチ

エクスポートジャーの5ステップアプローチを基に2人のインタビューからOFWを取り巻く問題を考察する。

その前にこのアプローチについて説明する。暴力・自力更生・阻害・連帯・関係関与の5つの側面から問題を見ることで理解をし、自分との関係を考える。暴力とは、潜在的実現性（実現するはずのもの）を阻害するものである。暴力には直接的暴力（罵声を浴びせる・親の収入が少なくて学校に行けないなど）と構造的暴力（無給で残業をするのが社会で当たり前になって自分もしなくてはならなくなる状況など暴力する人が定まっていないもの）の2つがある。自力更生努力は、暴力をなくすために被害者がしていること。阻害は、何らかの障害が立ち上がり被害者の自力更生努力を妨げる、

阻害しているもの。連帯とは、被害者と外部からの支援などの連帯のこと。最後に関係
関与は、被害者と私の関係性。

① 暴力

直接的暴力

- お金が十分でない
→親に十分な稼ぎがなくフィリピンより賃金の高い海外で働き、親に仕送りを
する人が多い
- 休憩時間がない
→AさんとB-2さんが働いていた会社では、仕事が遅かった場合休憩時間に仕事
をやらされていた
- 賃金が公平ではない
→AさんB-2さんの会社では、同じ仕事でも日本人は月約40万、フィリピン人
は月約20万である
- 心理的ストレス
→家族をおいて長期間国外に行くが、会社や仲介業者が家族と連絡を取ること
や帰国することを禁じることがある、それにより心理的にストレスがたまる
→B-1さんの場合、カタールに行ってから3年間はフィリピンに帰国することを
禁じられていた
- 村のインフラが整っていない
→道はガタガタ、電話が繋がらないところもある

構造的暴力

- 雇用の少ない分野がある
→エンジニア系の仕事は国内に少なく、高校や大学で専攻にした人は海外で働
かなくてはいけなくなる
- 労働輸入国が賃金の安い技能実習生を使う
→AさんB-2さんはもともと溶接の経験があり日本人と同じ仕事をしてしたが、
日本人の半分の給料しかもらっていなかった
→外国人技能実習制度は習得技能と帰国後の能力発揮で自信の職業生活の向上
や産業に貢献するためにあるが、彼らは帰国後その仕事を辞めている
- 悪質仲介業者
→労働者を長い間帰国させない

② 自力更生

- より高い賃金を得るために海外に出稼ぎに行く

- 国内にない仕事をするために海外で働く

③ 自力更生努力の阻害要因

- 暴力の内面化（暴力に気づいていない）
→Aさんは、日本人と同じ仕事をして自分たちの賃金が安いのは、生活する費用が違うため問題でないと思っていた
- 仕事が忙しくて子供の面倒をみられない
→B-1さんは共働きで長時間労働なので子供をフィリピンの親戚に預けていた

④ 連帯

- 親戚に子供を預ける
- 社会保障を受けられる（SSSやPhilHealthなどフィリピン国内のもの）
→これらはOFWだから受けられる訳ではなく、OFWになるために必要なもの

4. 関係関与とおわりの言葉

私がギフルガンで取材をして強く感じたことは、社会的に一見よく見えることがあっても暴力は潜んでいること。AさんとB-2さんは日本の造船会社で技能実習生として溶接業をした。彼らからすれば、日本で働くのは高い賃金をもらえていいことだ。日本の雇い主の会社からしても、安い賃金で労働力を得られる。この会社のホームページには、「技術大国である日本の造船業界は、世界最高峰の技術を伝える人材をフィリピンに求めています。フィリピンの若者に技術指導をし造船の技術を外国人に伝授する…」と書いてあった。普通に見れば、海外に技術を教えていて社会貢献しているいい会社だと思える。しかし本当にそれをそのまま鵜呑みにしていいのだろうか。私がインタビューをした2人は帰国後に造船業をやめていて、日本の技術をフィリピンに伝授していない。さらに、彼らはフィリピンで造船業の経験がある。3年もの間、同じ仕事をしていた日本人の半分の給料しかもらっていない。これは果たして正当な額なのだろうか。労働者、労働を使う会社の両者が、いいと思っている状況であったが、私は労働力がうまく使われているようにみえると思った。この状況が続けば労働力を輸出するフィリピンと輸入する国の関係性は変わらない。また、帰国した労働者が国内での格差を広げている側面もある。フィリピンで働く人よりもお金を持っているOFWは、お金をたくさん使うことによって国内の物価を上げる。安い労働を使う日本とOFWの格差、OFWとフィリピン国内で働く人たちの格差はどんどん広まっていくかもしれない。技能途上国に高度な技術を伝える技能実習制度、一見すると社会的にいい制度であるが、多面的にそれぞれの視点を考えると問題がみえてきた。この視点は社会で起きていることすべてに必要な考え方だと思った。いま私には問題が見えているだけである。これからの大学生活でどうやったら問題を解決できるのか調べたいと思う。

参考文献

外務省 フィリピン共和国 最近のフィリピン情勢と日・フィリピン関係

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/philippines/kankei.html>

日本貿易振興機構 アジア経済研究所 『「貧困概念」基礎研究』第七章 フィリピンの海外労働者—「出稼ぎ」と貧困のジレンマ

http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Download/Report/pdf/2004_04_29_07.pdf

OFW、海外送金とフィリピンの経済発展

http://archive.kyotogakuen.ac.jp/~o_econ/society/treatises/pdf/19-1-maki.pdf

フィリピンにおける海外雇用政策の経済的結果

<http://eshoseminar.web.fc2.com/phi2.pdf>

アジアにおける人の移動と労働市場 (2004)

http://www.jil.go.jp/foreign/event/ko_work/documents/2004sopemi/2004sopemi_all.pdf

公益財団法人 国際研修協力機構 外国人技能実習制度のあらまし

http://www.jitco.or.jp/system/seido_enkakuhaikai.html